餅　　搗（つき）

年の暮，家々では煤払（すすはらい），畳替に障子張りと新しい年を迎える準備にとりかかる。

冬場の静かな世界から，なんとなくざわついた雰囲気になる。この季節感の変化に心をときめかす……そんな時期でもある。

一家をあげて行う餅つきは，子供達も加われる年の瀬行事の一つ。寒夜の明けるころ，湯気の匂いがあったかくたちこめるなか，かじかんだちっちゃな手をいっぱい広げて，お供えやのし餅をつくる。そして，真白になった手や顔で，つきたての小豆餅やおろし餅をほおばる味はこれまた格別だ。

今の子供達は，うすと杵でつく餅つきは幼稚園で教えてくれるという。そんな複雑な思いをよせながら，今も変らぬはしゃぐ姿に夢中でシャッターをきった。

12月のおもな行事

○１日	農業基本調査市町村説明会(鉾田町)
○３日	家計調査打合せ会議(水戸市)
○７～９日	農業基本調査市町村説明会(下館市，土浦市，水戸市)
○10～13日	統計グラフコンクール入賞作品の展覧会(水戸市)
○20日	小売，消費者物価合同打合せ(水戸市)
○21日	住宅統計調査説明会(下館市，土浦市，水戸市)
○23日	第７次漁業センサス検討会(東京都)
○28日	御用納め

事業所関係統計の体系とその見方，使い方（その2）

◇ 産業構造の変化と現状

産業構造をみる場合，いろいろの角度・視点から接近することができるが，一般に産業を3分割してその変せんをみることが多い。これは，産業全体の構造が，大まかにどう変化しているかを把握するのに有効な手段である。すなわち，第一次産業，第二次産業，第三次産業がそれであるが，最初に，3分割による各産業の内容・性格をみておこう。

(1) 3分割法による各産業の性格

第一次産業には，農業，林業及び水産業が含まれるが，これらはいずれも物(財貨)の生産を行う業種の集まりであり，次の第二次産業との相違は，物の生産ではあるが，一般に加工を伴わないところに特徴がある。

農　業：農作物の栽培，養苗，養蚕，園芸などを行う産業である。

林　業：育林，素材の生産，林産物の採取などを行う産業である。

水産業：水産動植物の採捕，養殖を行う産業である。

次に，第二次産業には，鉱業，建設業及び製造業が含まれるが，これらの産業の特徴は，物(財貨)の生産・加工を行う業種の集まりとみることができる。

鉱　業：天然資源(鉱石・石炭など)の採取，採石などを行う産業である。

建設業：土地に固着した建築物，土木施設などの新設，改造，除却，移転などを行う産業である。

製造業：有機・無機の物質に物理的，化学的変化を加えることにより新製品を製造し，これを卸売りする産業である。

第三次産業は，第一次産業・第二次産業が，いずれも物(財貨)を生産する産業のグループであるのに対し，物の生産には直接関係がないところにその特徴がある。すなわち，第三次産業は各種のサービス(用役)を生産し，提供する業種であり，次のような産業が含まれる。

商　業：有体の各種商品の販売を業とする産業で，商業サービスを生産し，提供する。

金融保険業：金融資産の安全保管，資金融資など，各種金融サービスを生産し，提供する。銀行，証券，保険，共済組合などが含まれる。

不動産業：土地に定着した物件または土地の売買，賃貸，仲介等の便役を生産し，提供する。

運輸通信業：運送用具により人または貨物の輸送，貨物の保管，通信など，運輸通信サービスを生産し，提供する。

電気・ガス・水道業：電力の発電及び供給，ガスの生産及び供給，水の供給を行う産業であるが，これらの産業は，電力やガスの生産と，導線，導管による供給といったサービスが複合した産業であり，前者の部分はその性格上第二次産業のグループに含めるのが適当であるが，両者を分離するのは困難なため，便宜上まとめて第三次産業のグループに入れる場合が多い。

サービス業：個人または事業所に対し，上記に該当しない各種のサービスを生産し，提供する産業である。ここには，日常生活に欠かせない各種のサービス（旅館，理容，衛生，娯楽業など），物器賃貸業，修理業，情報産業などはもちろんのこと，医療，教育，社会福祉など公共的なサービス提供も含まれる。

公　務：立法，司法，行政など国及び地方公共団体で，一般に行政サービスを提供する機関である。

(2) 従業者数からみた産業構造の推移

戦後の我が国経済は，昭和20年代の復興期を経て，30年代半ばからいわゆる高度経済成長の軌道に乗り，48年と54年の2度にわたるオイルショックに至るまで極めて順調な発展を遂げてきた。この間にあって，我が国の産業構造は大きな変化をみたが，その様子を事業所統計調査の結果等による従業者数の動きで示したのが表―1である。

一般に，産業構造の変化をマクロ的に概観する場合，従業者数あるいは生産所得の産業別構成が用いられるが，ここには高度経済成長の始まる直前の32年から最近時までの従業者数による産業構成の推移を示してみた。

《第一次産業構成比の急激な低下》

昭和32年当時，第一次産業の従業者数は全従業者数の半分近くを占めていたが，これが年を追って減少し，しかもその幅は極めて大きく，56年には全従業者に占める割合は10%，実数でみても32年当時の3分の1程度にまで低下し

総理府統計局統計専門官　越　智　康　則

表―1　産業別従業者数の推移（全国）

年　次	全産業			第1次産業			第2次産業			第3次産業		
	従業者数（千人）	対前回増加率（%）	構成比（%）	従業者数（千人）	対前回増加率（%）	構成比（%）	従業者数（千人）	対前回増加率（%）	構成比（%）	従業者数（千人）	対前回増加率（%）	構成比（%）
昭和32年	41,716	9.2	100.0	18,560	△ 4.2	44.5	9,467	21.2	22.7	13,689	24.3	32.8
35	43,410	4.1	100.0	16,379	△11.7	37.7	11,378	20.2	26.2	15,653	14.3	36.1
38	45,210	4.1	100.0	13,710	△16.3	30.3	13,256	16.5	29.3	18,244	16.6	40.4
41	48,339	6.9	100.0	12,700	△ 7.4	26.3	14,717	11.0	30.4	20,922	14.7	43.3
44	50,268	4.0	100.0	10,521	△17.2	20.9	16,255	10.5	32.3	23,492	12.3	46.7
47	52,026	3.5	100.0	8,364	△20.5	16.1	17,570	8.1	33.8	26,092	11.1	50.2
50	52,446	0.8	100.0	7,620	△ 8.9	14.5	17,067	△ 2.9	32.5	27,759	6.4	52.9
53	54,924	4.7	100.0	7,277	△ 4.5	13.2	17,315	1.5	31.5	30,332	9.3	55.2
56	57,387	4.9	100.0	6,149	△15.5	10.7	17,994	3.9	31.4	33,244	9.6	57.9

注　1）各年，おおむね7月における従業者数（正確には事業所統計調査の調査時点）。
　　2）第1次産業の従業者数は，国勢調査と労働力調査の結果から推計したものである。
　　3）「△」符号は，マイナスを示す。

ている。従業者全体は増加する中にあって，農業を中心とした第一次産業従業者のこの動きは，高度経済成長を主導した製造業部門の拡大に伴う労働力人口の産業間移動，さらには農村地域の人口移動による過疎化の問題等と併せて，注目されるところであろう。

《第二次産業の拡大と低成長期の減量経営》

建設鉱工業からなる第二次産業は，第一次産業の動きに引きかえそのウエイトを拡大してきたが，特に高度経済成長期にあっては軽工業中心から重化学工業化，すなわち鉄鋼，電力，造船，機械産業，石油化学工業などの大型装置産業の進出による産業の構造変化に伴う雇用吸引力が大きく，47年当時まではそのウエイトを高めてきた。しかし，48年のオイルショックを契機とした経済成長の停滞期を迎えた50年には，従業者数のうえで3年前に比べマイナスとなり，その後も従業者数の伸びはわずかなものに止まっている。低成長期あるいは安定成長期に入ったといわれる今日，第二次産業部門にあっては人，資源ともに減量あるいは合理化経営へのきびしい模索がうかがわれる。

《増勢をたどる第三次産業従業者数》

第三次産業の特徴は，従業者数の一貫した増勢傾向である。すでにみてきたように，第三次産業はサービスを扱う部門であった。32年当時で全従業者数の33%・3分の1を占めていたが，年々そのウエイトを高め47年には50%を占め，さらにその後も拡大の一途をたどり，56年には58%と，全体の6割近くに達している。

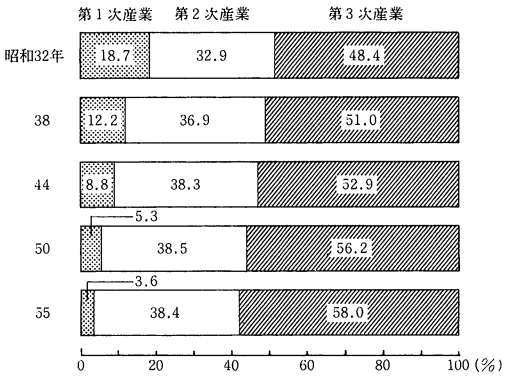
しかも，オイルショック後の50年に一時増加率は下がったものの，その後は年々増加率を高めている。すなわち，オイルショック後の景気停滞期にあって，第一次産業，第二次産業の従業者数が，前期比マイナスか増加してもその率が低いのに対し，第三次産業の増加率はかなり高い水準を維持しているのである。つまり，年々増加する労働力人口に対し，第三次産業がこれを吸収しているかにみえるが，経済社会の成熟，それに伴うサービス経済化の進展等とあいまって，今後の動向が注目されるところである。

(3)　生産所得からみた産業構造の推移

以上は，従業者数の産業別構成の動向を概観したものであるが，以下視点を変えて，各産業が生産活動の結果として生み出す所得の面から産業構造の変せんを概観することとする。

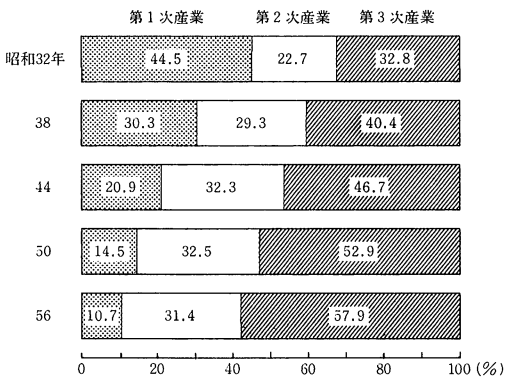
図―1は，従業者数の場合と同様に，産業を3分割して各産業がその1年間に生み出した所得(名目値)の構成比をみたものである。(図―2は，図―1と比較するため，表―1の一部をグラフ化したものである。)

図―1　所得統計からみた産業構成（全国）



資料）経済企画庁「国民経済計算年報」
注）昭和44年までは「国内純生産」，50年以降は「国内総生産」による。

図―2　従業者数でみた産業構成（全国）



注）「表―1」の注参照。

これによると，第一次産業は，昭和32年当時は全産業の19%を占めていたが，年々そのウエイトは低下し，55年にはわずかに4%程度となっているのに対し，第二次産業は，32年当時は33%と全体の3分の1のウエイトであったが，その後ウエイトを高めているものの，44年以降38%強の水準のままで大きな変化はみられない。

第三次産業については，32年当時で48%であったが，38年には50%水準を超え，その後もウエイトを高めて，55年には58%にまで達している。

以上，産業の構成を従業者数及び所得のそれぞれをベースとして概観してきたが，図―1・2にみるとおり共通していえることは，第一次産業の相対的なウエイトは縮小してきているのに対し，第三次産業のウエイトは年々拡大していることである。ただし，注意しなければならないのは，これは構成比の問題であり，特に所得の場合は，32年から55年までの間に我が国の経済規模は名目値で約25倍に拡大しており，各産業の経済規模が縮小したことを意味するものではないということである。

また，ここでは，産業3分割により極く大まかな産業構造の変せんをみたわけであるが，産業構造の分析を行う場合には，目的により産業をさらに分割した大分類，中分類，あるいは細分類などの詳細な業種に立ち入った検討と分析が，個々の問題に応じてなされる必要がある。

◇ 茨城県における産業構造

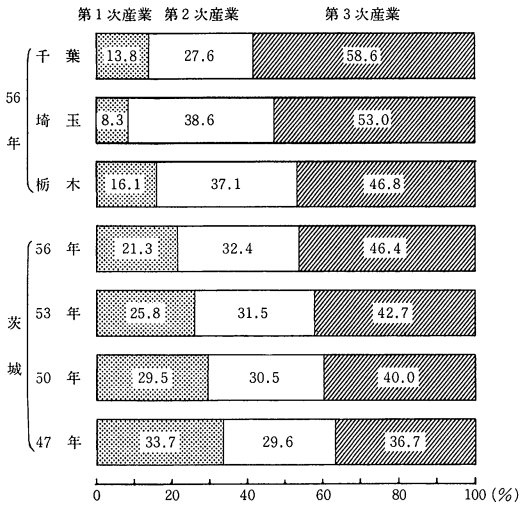
事業所統計調査の結果によると，近年における茨城県の事業所数及び従業者数の増加はめざましいものがある。ちなみに，昭和56年7月に行われた調査によると，農林漁家を除いた茨城県の事業所数は12万5千で，その増加率は3年間で11%(年率3.5%)と全国平均の7%を大きくしのぎ，隣接の千葉県，埼玉県についで全国3位を記録した。従業者数についても同様，実数は98万4千人，その増加率は13%(年率4.2%)と全国平均の8%を超え，全国第5位となっている。以下，茨城県における産業構造を中心に概観する。

(1)　従業者数からみた産業構造

昭和56年について茨城県の産業構成をみると，第一次産業の従業者数は全体の21%を占め，第二次産業は32%，第三次産業は46%となっている。最近の約10年間の構造変化をみると，47年当時は第一次産業が34%，第二次産業が30%，第三次産業が37%と，これら3部門で従業者を三等分するような構成となっていたが，その後第一次産業については年々そのウエイトを大幅に縮小してきたのに対し，第三次産業は拡大，第二次産業もわずかながら拡大を示している。(図―3参照)

ところで，これを全国平均と対比してみると，47年当時第一次産業は16%，第二次産業は33%，第三次産業は50%であったから，茨城県の場合は全国平均に対し，第一次産業従業者の割合が高く，第三次産業従業者の割合がかなり低い。最近年である56年についても全国平均のそれは，第一次産業11%，第二次産業31%，第三次産業58%であるからほぼ同様の傾向がみられ，茨城県は第一次産業への依

図―3　茨城と隣接県の従業者数の産業構成



存が高いと言えよう。一方，第二次産業については，全国平均ではこの約10年間にそのウエイトを縮小しているのに対し，茨城県ではそのウエイトを拡大しているのも見逃がせない。

(2)　隣接県との産業構造の比較

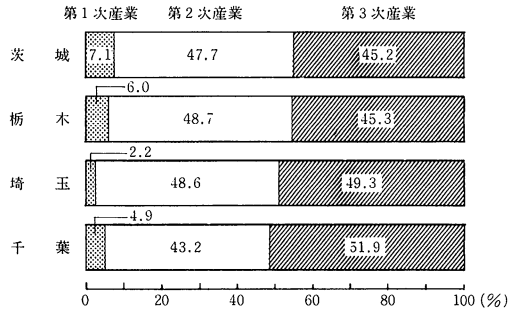
茨城県に隣接した関東3県，すなわち，栃木県，埼玉県及び千葉県について，その産業構成をみると図―3に示したとおり，第一次産業の割合は茨城県が21%で最も大きく，次いで栃木県16%，千葉県14%，埼玉県8%となっている。

第二次産業では埼玉県が39%，栃木県が37%，茨城県が32%，千葉県が28%，そして第三次産業は千葉県が59%，埼玉県が53%といずれも50%台を超えているのに対し，栃木県が47%，茨城県が46%となっている。

このように，これら4県の産業構成にはかなりの差がみられるが，その要因は様々で，経済社会の進展度のほか，その置かれた地理的条件，すなわち，茨城県と千葉県については海に面して漁業も盛んであるのに対し，栃木，埼玉の両県は内陸部に位置すること，また，埼玉県及び千葉県は東京都に隣接し，東京経済圏の中核部に近いこと，などがそれぞれの産業立地に影響を与えているとみられる。

以上は，従業者ベースでみた近隣4県の産業構成であるが，次に，生産所得のベースでこれら4県の産業構成をみてみよう。

図―4　茨城と隣接県の所得統計による産業構成(54年度)



資料）県民所得統計による。

図―4は，各県がそれぞれ独自に推計した県民所得統計による昭和54年度中の産業別県内純生産額から作成したものである。これによると，4県ともあまり大きな差はなく，中でも茨城県と栃木県は産業3区分でみる限り同じ構成を示している。埼玉県と千葉県は，第一次産業のウエイトが低く，その分だけ第三次産業のウエイトが高く50%前後の水準に達している。なお，第二次産業のウエイトは，各県とも48%前後で変わらない。

また，ここでは取り扱わないが，産業別従業者数と生産所得を整合的に推計することにより，そこから産業別の労働生産性に関する分析を行うことも可能となるであろう。

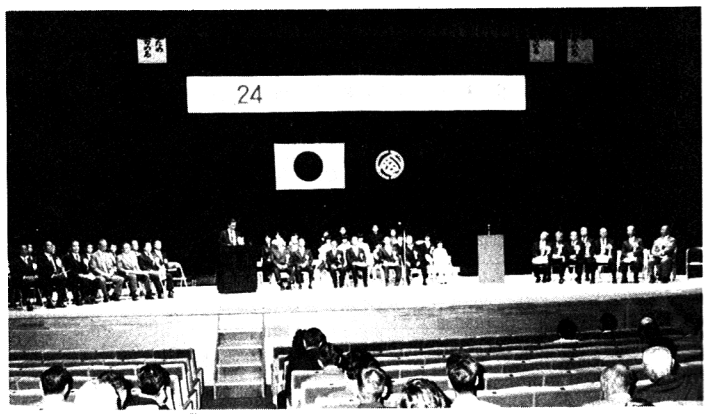
〔次号に続く〕

●特　集

第24回茨城県統計大会
統計の日に大洗町で開催

秋晴れの微風さわやかな10月18日(月)の統計の日，大洗町「大洗文化センター」において，来賓多数を迎え，県内の統計調査員をはじめ統計関係者850余名の参加を得て，第24回茨城県統計大会(昭和57年度)が盛大に開催されました。

昭和34年にうぶ声をあげたこの大会は，統計関係者の一層の自覚と認識を深めるとともに，県民に対する統計思想の普及を図ることを目的としており，併せて，永年にわたり統計事業の発展に多大の功績のあった方々や事業所に対して表彰を行っております。(被表彰者名簿を参照)



大会式典であいさつをする竹内知事

大会は，宮島県統計課長の開会のことばで幕を開け，竹内知事の挨拶，竹内大洗町長の歓迎挨拶と続き，このあと統計功労者の表彰が行われ，知事表彰，県統計協会総裁表彰，各省庁大臣表彰伝達，全国統計協会連合会長表彰及び県統計グラフコンクール入選者の各受賞者代表に表彰状が授与されました。来賓の祝辞，受賞者代表謝辞のあと，統計事業の今後ますますの発展を期し，大会参加者の総意を結集した大会宣言が，小谷大洗町企画室長の力強い宣言(案)の朗読ののち，満場の拍手で採択されました。最後に，照沼勝田市企画課長の閉会のことばで意義のあるこの大会の

宣　言

最近のわが国を取り巻く諸情勢は，依然として厳しく，地方自治体運営にも的確な選択が余儀なくされており，行財政運営の健全化を図りつつ，新しい時代に即応した対策が求められております。

本県においても新しい流れの中で，真にうるおいとやすらぎのある“調和のとれた活力ある地域社会づくり”をめざして，計画的かつ的確な行財政運営を進める必要があります。

この時にあたり，正しい現状認識と的確な将来予測の指針として，統計に課せられた役割と期待はますます大きなものがあります。

本日ここに，第24回茨城県統計大会が意義のある統計の日に開催されるにあたり，われわれ統計関係者は，その重大な使命を深く認識するとともに，統計に対する県民の理解と協力を訴え，統計の一層の発展を期して次のとおり決議し宣言する。

大会宣言を朗読する
小谷大洗町企画室長

1．豊かで住みよい地域社会づくりに役立つ統計の提供に努める。

2．統計調査に対する県民の理解と協力を得るため，更に統計思想の普及高揚に努める。

3．統計調査の真実性，信頼性を高め，その水準の向上を図るため一層の研さんに努める。

昭和57年10月18日

第24回茨城県統計大会

《あいさつ》

竹　内　知　事

竹内大洗町長

《祝　　辞》

行政管理庁
（木村茨城行政監察局長）

小幡県議会議員
（県議会議長代理）

山口笠間市長
（市町村長代表）

幕が閉じられました。

続いて，“三浜民謡のしらべ„と題し，浜久美子さん（ビクター専属）を迎え，大洗町本場磯節保存会有志の方々による囃子と踊りで格調高い郷土芸能の披露があり，参加者の労をねぎらいました。

今大会は，県都水戸市を離れ，本県と北海道とを結ぶカーフェリー基地の機能を有する商港として，今後ますますの発展が期待されている大洗町で開催いたしました。会場設営等の諸準備に，公務多忙にも拘らずご協力いただきました大洗町役場職員はじめ，東茨城郡町村統計担当職員の方々に対して深く感謝申し上げます。

第24回 茨城県統計大会被表彰者

《被表彰者名簿》

〔茨城県知事表彰〕

【統計調査員】　加藤木邦雄，宮部崟之，小林勝美，菅谷一男，菊池昇（水戸市），橘喜代志，石井光通（日立市），齋藤岩男，久松亨（土浦市），阿部丈夫（古河市），田崎岩吉，大橋登（石岡市），飯田宗一，濱野能一，中澤清（下館市），小貫重明，黒川定善（結城市），宮本一也，松田正（竜ヶ崎市），幸田一夫，国府田喜一（下妻市），茂呂芳雄，平間勝彌（水海道市），金沢正芳，黒羽資正（常陸太田市），蒲生勇，塙孝明（勝田市），井坂盛一（高萩市），野口照男，松下長兵衛（北茨城市），福田和夫，高野巖（笠間市），塩野昭子（取手市），宮内謙二，飯田素雄（岩井市），川又正次（常澄村），飯塚一郎，小玉利光（茨城町），八文字希典（小川町），矢口亟（美野里町），柏勇壽（内原町），綿引昱夫（常北町），萩谷芳男（桂村），永嶋舜（御前山村），永山延夫（友部町），小磯章一（岩間町），青山保（七会村），保坂正二，高松良市（岩瀬町），澤畑義雄（東海村），浅野哲，小田部久彦（那珂町），横山貞義，大沢政一（大宮町），益子朝雄（山方町），川野有司（美和村），高井良男（緒川村），坂巻一（金砂郷村），吉成晟（水府村），佐川洋（里美村），鴨志田榮，菊池正勝，鈴木喜一（大子町），遠藤ふみ江（十王町），内山千代治（旭村），菅井志津子，小室城（鉾田町），貝塚清（大洋村），大谷進（大野村），藤岡新吉（鹿島町），持田奬（神栖町），原目保，塙久雄（麻生町），塚本ふじ子，秋山亘（潮来町），関口弘美（玉造町），林幸一（江戸崎町），野口健吉（美浦村），木村二郎（阿見町），秋田耕作（牛久町），高橋三郎（新利根村），藤間吉江（河内村），鈴木秀雄，高崎益志（出島村），石橋清壽（玉里村），市村隆一，佐藤征男，鬼沢仙治（八郷町），鈴木善二（千代田村），山田正（桜村），飯泉成三，飯塚君哉（谷田部町），高宮金市（伊奈村），片見登司夫，豊島喜宗次（谷和原村），小倉三郎（豊里町），櫻井陽一，日辻文雄（筑波町），丹羽力松（大穂町），山口英一（関城町），古橋貞一郎，中島

茂(明野町), 臼井義三, 田林信一(真壁町), 小倉喜代一(大和村), 前田満(協和町), 野中敬, 小野寺軍次(八千代町), 人見良雄(千代川村), 篠崎憲(石下町), 大関正義(五霞村), 二宮弘, 海老原誠(三和町), 竹野内久男(猿島町), 広瀬守(守谷町), 小谷野昇(藤代町), 桜井薫(利根町)　**【市町村職員】**　大橋加代子(結城市), 神矢安夫(岩井市), 長島章(筑波町)　**【団体表彰】**　水海道市, 取手市, 大洗町, 友部町, 緒川村

〔茨城県統計協会総裁表彰〕

【統計調査員】　戸井田清, 舘光昭, 石川芳夫, 雨谷操(水戸市), 照山武, 木名瀬好文, 助川浩一郎(日立市), 萩島盛一, 片岡喜久雄, 磯原四郎(土浦市), 金久保三郎(古河市), 幡進之亟(石岡市), 鉄炮塚精四郎, 羽田嘉晴(下館市), 笠島順一(結城市), 片根誠(竜ヶ崎市), 稲葉博, 冨岡茂(下妻市), 渡辺彌四郎, 添野衛次郎(水海道市), 田所正好(常陸太田市), 見越清子(勝田市), 塩畑又一(高萩市), 保坂雄一, 山名清(北茨城市), 大根田保太郎, 鈴木豊雄, 長谷川豊後(笠間市), 中村豊(取手市), 針替文雄, 細沼正雄(岩井市), 五上忠徳(常澄村), 緒方津留, 海老沢亨(茨城町), 郡司健(小川町), 太田耕平(美野里町), 廣瀬宜(内原町), 森田種正(桂村), 加藤鉦好(常北町), 中村鉈造(友部町), 宮本久, 矢口徳蔵(岩間町), 卜部三千雄(七会村), 谷中藤吉(岩瀬町), 関田宗雄, 大内久一(東海村), 加藤昇, 木野内信一(那珂町), 樫村昭(瓜連町), 大場実(大宮町), 金子嘉明(山方町), 葛西長一(美和村), 広木直三郎(緒川村), 海老根一郎(金砂郷村), 鈴木正夫(水府村), 大金義一(里美村), 鈴木諭, 藤田勝利(大子町), 戸井田清(十王町), 塙誠(旭村), 塙篤郎(鉾田町), 飯島幸男(大洋村), 出頭五郎, 野口眞一(大野村), 本田本義(鹿島町), 名雪佳(神栖町), 大塚完治(波崎町), 市村吉雄, 東山正二(麻生町), 志村英一(牛堀町), 藤崎讃(潮来町), 仲居忠(北浦村), 成島佐男(玉造町), 伊藤俊樹(江戸崎町), 小島一夫(阿見町), 吉田克己(牛久町), 川崎章(新利根村), 岡野泰一(河内村), 平井衛(東村), 内田久(出島村), 塚田一郎(玉里村), 鬼沢嘉雄, 大図繁(八郷町), 川俣實(千代田村), 野口茂, 宮崎栄治(新治村), 酒井浪夫(桜村), 鷹巣定男(谷田部町), 斉藤美尚(伊奈村), 桜井清(豊里町), 皆川武夫(筑波町), 吉村好(大穂町), 初澤彦一(関城町), 稲葉泰造(明野町), 上野泰(真壁町), 安達好雄(大和村), 谷島幸一(協和町), 小野里勘市(八千代町), 山本富三郎(総和町), 須釜松司(五霞村), 橋本隆一郎(三和町), 金子政春, 高橋三郎(境町), 木村長一(守谷町), 金谷佳俊(藤代町), 坂本安次(利根町)　**【市町村職員】**　伊澤重治(結城市), 大野清次(常陸太田市), 澤畑隆一(勝田市), 小川喜代子(岩井市), 岡田栄(大子町), 川口晃(鹿島町), 倉持政永(谷和原村), 桑原政次(石下町), 金子貞雄(三和村)　**【県職員】**　武子孝之, 武藤明, 住谷文子, 片岡恵美子, 渡辺博義

〈各省庁大臣等表彰〉

〔内閣総理大臣表彰〕

【昭和56年事業所統計調査】　那珂湊市, 大子町　**【労働力調査】**　柳川澪子(日立市統計調査員), 瀬尾梅吉(土浦市

知　事　表　彰

県統計協会総裁表彰

各省庁大臣表彰伝達

グラフコンクール知事賞表彰

全国統計協会連合会長表彰伝達

受賞者代表謝辞

統計調査員)，坂本晴男(神栖町統計調査員)　**【小売物価統計調査】**　丸山武志(古河市統計調査員)　**【家計調査】**　綿引スミ子(水戸市統計調査員)　**【住民基本台帳人口移動報告】**　結城市

〔行政管理庁長官表彰〕

飯塚房恵(土浦市職員)，渡辺斌(山方町職員)，内田康夫(玉里村職員)，芝山唯光(千代田村職員)　**【特別表彰】**　鷲見丈(前県統計課長)

〔経済企画庁長官表彰〕

【消費動向調査】　永井裕子(水戸市統計調査員)

〔文部大臣表彰〕

【個人表彰】　人見政芳(千代川村職員)　**【学校基本調査】**　勝田市，岩井市教育委員会，県立水戸第三高等学校　**【学校保健統計調査】**　水戸市立緑岡小学校，友部町立友部中学校，県立土浦第一高等学校

〔通商産業大臣表彰〕

【総合】　諸星嘉津雄(潮来町職員)　**【工業統計調査】**　千代川村，北浦村，田中善雄(古河市統計調査員)，伊東康光(水戸市統計調査員)，株式会社三幸ビニール工業所第二工場(常北町)，株式会社常陸スチールセンター(那珂町)，大川製螺工業株式会社水戸工場(大宮町)，南進化成株式会社鉾田工場(旭村)，丸井繊維工業株式会社霞ヶ浦工場(美浦村)，株式会社常盤コンクリート工業所茨城工場(豊里町)，株式会社荒井製作所筑波工場(谷田部町)，柴田ハリオ硝子株式会社古河工場(三和町)，有限会社扶桑合成(結城市)

【生産動態統計調査】　中村猛夫(土浦市統計調査員)，高

橋建材工業株式会社第五工場(茨城町)，市川毛織株式会社友部工場(友部町)，株式会社グレースシューズ笠間工場(笠間市)，株式会社いしや(那珂湊市)　**【商業動態統計調査】**　株式会社結城栄養食センター(結城市)

〔労働大臣表彰〕

【毎月勤労統計調査】　日本コンクリート工業株式会社川嶋工場(下館市)，日立木材地所株式会社(日立市)，株式会社カスミストアー(土浦市)，鹿島運輸株式会社(鹿島町)，藤井繊維工業株式会社(竜ヶ崎市)，総合病院水戸協同病院(水戸市)，常磐炭礦株式会社茨城工業所(北茨城市)，第一生命保険相互会社水戸支社(水戸市)，株式会社オガワ縫製(緒川村)，関東ビルサービス株式会社(水戸市)，茨城いすゞ自動車株式会社土浦支店(土浦市)，株式会社日立荷造山方工場(山方町)，カネボウシルク株式会社結城工場(結城市)，有限会社加藤鉄工所(日立市)，関田雄敏(東海村統計調査員)，小川善雄(谷田部町統計調査員)

〔全国統計協会連合会長表彰〕

嶌健(水戸市職員)，黒沢憲光(常陸太田市職員)，橋本祐子(東海村職員)，荒井洋子(県職員)　**【特別表彰】**　鷲見丈(前県統計課長)

茨城県農業基本調査のあらまし

来年2月1日には，県下一斉に農業基本調査を実施いたします。

この調査は，本県経済を支える重要な産業である農業の現状を的確にとらえ，農業をとりまくきびしい情勢に対処していくための貴重な資料を得ることを目的とするもので，2年ごとに実施(昭和28年から50年までは毎年実施)しております。調査対象数は概ね171,000戸，また，調査員数は6,400余人に及び大規模な調査で，その概要は次のとおりです。

1．調査の基本

茨城県統計調査条例及び茨城県農業基本調査規則に基づき実施するものです。

2．調査の期日

昭和58年2月1日現在で行います。

3．調査の対象

調査の対象は，次の何れかに該当する農業事業体(農家・学校・試験場・協同組合・会社等)です。

① 経営耕地面積(借入地を含む)が，10a(約1反)以上あること。

② 経営耕地面積が10a未満でも，調査期日前1年間における農業生産物の総販売額が，10万円以上あること。

4．調査事項

① 世帯員	⑤ 施設園芸
② 土　地	⑥ 家　畜
③ 収穫面積	⑦ しいたけ栽培
④ 果樹園面積	⑧ 農用機械

5．調査の系統

調査は，次の系統を通じて行います。

県═══市町村═══調査員═══農業事業体

6．調査の方法

調査は，農業基本調査票に農業事業体の世帯主(管理者)が記入する自計申告の方法により行います。

調査地区内に配置されている統計調査員は，担当調査地区内すべての農業事業体の世帯主(管理者)に面接のうえ調査票を配付して記入方を依頼します。また，調査票の収集は，あらかじめ日時を定めて，統計調査員を通じて行うことになります。

7．公　　表

「昭和58年 茨城県農業基本調査結果報告書」として昭和59年1月公表見込みです。

(統計課・農林経済グループ)

昭和57年度統計グラフコンクール入選作品決まる

（茨城県統計グラフコンクール及び統計グラフ全国コンクール審査結果）

《茨城県統計グラフコンクール》

昭和57年度茨城県統計グラフコンクールは，９月10～11日の２日間にわたって最終審査が行われ，茨城県知事賞をはじめ各賞の入選作品が決定されました。

このコンクールは，茨城県・茨城県教育委員会及び茨城県統計協会主催，茨城新聞社後援で行われ，県民に対する統計知識の普及向上と統計の表現技術の研さんに資するため，県内の小学生・中学生・高校生・大学生及び一般から広く募集したものです。

第33回をむかえた今年度は，応募作品数も7,268点（第１部2,639点，第２部3,779点，第３部843点，第５部７点）となり，昨年に比べて約２千点増え，1.37倍という多数の応募がありました。

これも，統計教育研究部の諸先生方のご理解とご指導及び，各学校の先生方等関係者の熱心なご努力によるものと深く感謝いたしております。

主な入選者は後述のとおりです。なお，入選者は10月18日大洗町「大洗文化センター」で開催された第24回茨城県統計大会において表彰されました。

選　　評

審査員　茨城県統計教育研究部長　立原宣光

応募７千を越す

昨年度5,306点という５千台を軽く越す記録で関係者を驚かせたが，本年度はなんと7,268点という夢想だにしなかった多くの応募を数えた。昨年度と比較すると，第１部36%，第２部39%，第３部34%，平均37%の増である。これも，県統計課・統計協会のすばらしい企画並びに県内各小中学校の深い理解と協力によるもので，心から敬意を表します。

作品のあらまし

第１部（小１～小３）　低学年の児童らしい作品が多く，色彩もゆたかで，他の部よりカラフルである。内容は，遊び・家庭生活・学校生活などの身近なものが多い。作品の中で明らかに大人の手になると思われるものは除外した。

第２部（小４～小６）　さすがに高学年になると，グラフの多様な表現，文字の書体の造形にも工夫が見られすばらしい。内容はマンガ・テレビ・塾・読書など身近なものから，ゴミ・交通事故，さらには郷土の産業など幅広く問題をとらえている。

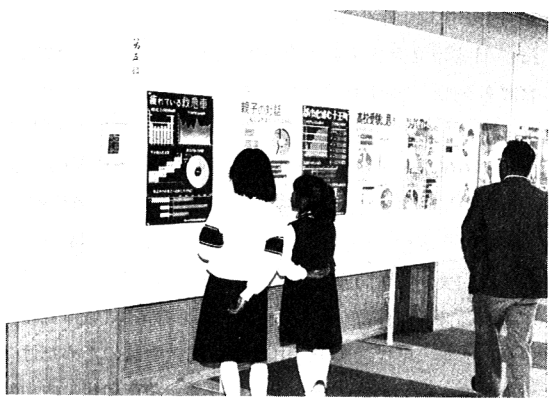
第３部（中１～中３）　幾分暗い感じの色彩が多かったが，主題設定，それに基づくグラフの多様な表現や色彩の明度・彩度・配色，それにレタリングの手法，全体的な画面構成などは，さすがに高度なものが多くすばらしい。内容は「高齢化社会・学習・部活動・入試・悩み・親子のずれ・非行」など，当面する社会問題をとりあげたものが多く，私ども大人には，彼等を理解する上で貴重なものである。

第４部（高校以上の学生）　残念なことは，本年度も応募０，昨年同様，今後の大きな課題である。

第５部（一般）　７点の応募あり，その作品はすばらしいものが多く，巡回展で中学生に見せたいものである。今後への期待も大きい。

優秀作品について

知事賞に輝いた第１部「ほめられてうれしいお手つだい」（下妻・大宝小３年）表現も低学年らしい作品で，グラフは見やすく分りやすい。全体構図もよくすばらしい。現代っ子は働かないと言われるが，この年代の子らの心を大切にしたい。第２部「本の好きな６年生，でもとても多いよマンガの本」（結城・結城小６年）調査内容は身近なことであるが，グラフや文字を立体化し，適度な量感をもたせ，割に多い



第24回茨城県統計大会会場内に展示された入選作品

グラフを全体的にバランスのとれた配置にし，色彩もよくすばらしい。第３部「やってきた高齢化社会」（結城・結城中３年）社会的にも話題となっている問題をとりあげた作品，底に流れる老人への暖かい心がほのぼのと感じられ，画面構成は主題の焦点化を明瞭にするようなグラフの組み合せであり，作図の美しさと合せ，何ともすばらしい作品で，力作である。

全体とおしてのお願い

用紙の規格の確認，観察調査年月日・資料の出所・目盛りに必要な単位の記入や適切なグラフ選定等は事前に十分な指導をねがいます。

第33回茨城県統計グラフコンクール入選者

茨城県知事賞　▷第１部「ほめられてうれしいお手つだい」（下妻市立大宝小学校３年　中山佳子）▷第２部「本の好きな６年生でもとても多いよマンガの本」（結城市立結城小学校６年　穐本玲子）▷第３部「やってきた高齢化社会」（前掲）▷第５部「反核の原点ヒロシマ・ナガサキ」（前掲）

県議会議長賞　▷第１部「けんこうってたいせつね」（茨城町立上野合小学校２年　石川洋子，上野久美子，長谷川忍穂，高柳由美子）▷第２部「あまいおやつ弱い歯や骨」（笠間市立笠間小学校６年　太田恵子，太田淳子，大月恵子）▷第３部「明日への炎太陽エネルギー」（結城市立結城中学校３年　稲葉由美子，杉山由巳江，中沢厚子）▷第５部「家庭のしつけは対話から」（勝田市　川野辺清）

県教育長賞　▷第１部「かみなりだどうしたか」（玉造町立羽生小学校１年　小沼理恵），「いちょうなみきがおおいね」（日立市立大久保小学校１年　伊藤愛），「おじいさん・おばあさん，たのしいことはなあに？」（茨城町立川根小学校２年　久保田美奈子）▷第２部「かぎっ子だってさびしくないぞ」（前掲），「まだまだ知らない科学万博つくば'85」（結城市立山川小学校５年　木村好孝，茂田一弘），「ぜいたくすぎない？現代っ子のおもちゃ」（水戸市立城東小学校６年　金子真由美，佐久間宏美，緑川妙子）▷第３部「生徒が期待する教師像」（前掲）▷「中学生の友人意識」（結城市立結城中学校２年　屋代恵美子，山中温子）▷「受験のためだけ？家庭学習」（岩井市立岩井中学校３年　後藤和代，中山純子）

県統計協会総裁賞　▷第１部「きゅうしょくのおかげすきになったよ」（常陸太田市立佐都小学校１年　後藤徹，中島剛），「しゅくだいひとりじゃしんぱい」（大子町立佐原小学校１年　菊池敦），「もっとあそびたい」（北茨城市立大津小学校２年　松下薫，伊藤厚子，清水泰子），「すきなくつはきたいな！」（結城市立結城南小学校２年　大橋美奈子，松村めぐみ，三宅まり子），「三年生ぼくもわたしもいそがしい」（土浦市立土浦小学校３年　山田満，岡野江津子）▷第２部「わたしのたからもの」（土浦市立神立小学校４年　今泉直子，本沢珠美，滝真智子），「こんなに多いゴミ」（日立市立水木小学校４年　工藤元，平沢孝，土屋清之），「弱くないかわたしたちの心」（結城市立結城小学校５年　堀江圭子，高津真弓），「しっかり前みて安全運転」（日立市立金沢小学校５年　荒川泰子，東万里子），「楽しかった修学旅行」（高萩市立高萩小学校６年　椎名智香子）▷第３部「平和を求めて真の平和とは」（日立市立多賀中学校１年　山岸郁子，藤井郁子），「悩みをかかえる中学生」（結城市立結城中学校２年　矢口泉，佐藤和子），「将来への希望！あなたは？」（岩間町立岩間中学校２年　南指原直子，松嶋絵里子），「中学生の感動」（岩間町立岩間中学校２年　外岡道子，渡辺真里子，池田美智子），「忘れていませんか？家族の対話」（日立市立中里中学校３年　浅野なおみ，和田真由美）▷第５部「教師への厳しい採点」（北茨城市　金澤勲）

茨城新聞社長賞　▷第１部「しあわせなおじいさんおばあさん」（取手市立吉田小学校３年　武藤隆洋）▷第２部「米中心から野菜畜産農業に」（下妻市立下妻小学校５年　都築琴子，初沢優子）▷第３部「人口ふえる結城地価の安さが原因か」（結城市立結城中学校１年　中山知子，日高睦美）▷第５部「他人事でない勤労者の老後」（前掲）

県統計協会長賞　▷第１部「あまいものがすきなアリ」（旭村立旭東小学校１年　久保ひと美，生井澤裕子，富田かすみ），「えんそくはたのしいな」（筑波町立小田小学校１年　小久保忍，杉山幸子），「ゆうぐのにんきもの　こわいね」（出島村立佐賀小学校１年　大久保洋克，中泉高二），「そとであそぼうよ」（那珂湊市立第一小学校２年　松田珠恵），「夏はやっぱりプールがいい！」（筑波町立筑波小学校２年　石川崇），「およげるようになったよ」（大宮町立世喜小学校２年　生天目修，沼田亜紀子，黒沢尚子，和田美香），「さ

さ舟つくれますか」(明野町立村田小学校３年，箱守崇代，鈴木まい子)，「楽しかった送る会」(牛堀町立八代小学校３年　栗俣博幸，明間清恵，鬼澤美穂子，永田聖，今泉裕一)，「家ぞくでいちばんすきな人」(岩井市立七郷小学校３年　森島秀樹，染谷栄子)，「こんなにあるよぼくらのちょ金」(結城市立結城小学校３年　宇敷奈月，田村朋子，信末良子)▷第２部「こんなに多い車での登校」(三和町立名崎小学校４年　路川一弘，中島覚，染野浩利)，「電車利用者は土よう日が多い」(北茨城市立関南小学校４年　越誉之)，「自分をふりかえってみたら」(土浦市立神立小学校５年　福井彩子，萩原正美)，「休みに期待するものは」(結城市立結城小学校５年　広沢良子)，「ぼく，わたしたちの将来こんな仕事したいのに」(三和町立諸川小学校５年　卯木希代子，香月玲子，石本由紀恵，中村佳子)，「なくしたい交通事故」(日立市立水木小学校６年　山田瑞穂)，「大子町の農業を見つめる」(大子町立大子小学校６年　小沢瑞司)，「意外に多い小学生のじゅく　ほしいゆとりの時間」(下妻市立大宝小学校６年　塚田幸光)，「めざそう５月30日(ゴミゼロ)の日」(結城市立江川南小学校６年　荒井加成子，荒川薫)，「正しいはしの持ち方おしえてくれたのはお母さん」(古河市立古河第一小学校６年　宮内菜保子，槇田恵理子，鈴木嘉代)▷第３部「親子の対話心のふれあい―やはり母」(結城市立結城中学校１年　飯島勝人，木村敦史)，「疲れている救急車」(結城市立結城中学校１年　柳田修子，柏崎文緒，山口智子)，「都市化進む十王町」(十王町立十王中学校１年　鈴木清志，梶川利弘)，「高校受験に思う」(結城市立結城南中学校１年　深谷美樹，岩田美和子，吉田道子)，「ツッパッてはみたいけど」(結城市立結城南中学校２年　渡辺祥子)，「中学生は父母をこう見る　勉強しろ！といわないで」(岩井市立岩井中学校２年　大河内志保，倉持昌代)，「進むな！非行への道へ」(下妻市立下妻中学校２年　寺田美穂，川田康子，望月照子，荒井かつ子)，「楽しい授業とは？」(笠間市立東中学校３年　大石和美，大森節子，柴沼深，加藤久子，田中富美子)，「親に期待するものは」(関城町立関城中学校３年　田崎恵子，田所真佐子)，「中学生の日常を追う　乱れた生活リズム」(岩井市立岩井中学校３年　中村仁美，丸田詠子)▷第５部「食糧輸入ストップしたら」(結城市　伊東芳江，伊東健)

《統計グラフ全国コンクール》

昭和57年度統計グラフ全国コンクールの入選作品が10月13日決定されました。本県からは友部町の青木勇一さんの作品「他人事でない勤労者の老後」が１席に入選したのをはじめ，合計10点が入選しました。これは，県審査入選作品のうち，優秀作品19点を全国コンクールに出品した中から全国審査で決定されたものです。

また，本年度の全国応募作品は58,323点になり，その中で本県は7,268点と約13%を占める全国一の応募数を記録しました。

なお，入選作品は，11月28日全国統計大会(石川県)で展示されたあと，全国各地を巡回し，国民に対する統計思想の普及啓発に広く活用されることになっています。

全国コンクール入選者は次のとおりです。

第30回統計グラフ全国コンクール入選者

第１部　▷佳作「おじいさん・おばあさん，たのしいことはなあに？」(茨城町立川根小学校２年　久保田美奈子)，「かみなりだどうしたか」(玉造町立羽生小学校１年　小沼理恵)

第２部　▷７席「かぎっ子だってさびしくないぞ」(下館市立川島小学校４年　加藤典子，斉藤千恵，田村友紀子)▷佳作「本の好きな６年生でもとても多いよマンガの本」(結城市立結城小学校６年　穐本玲子)

第３部　▷６席「やってきた高齢化社会」(結城市立結城中学校３年　稲葉稔，中原健彦，宮田豊)　▷８席「生徒が期待する教師像」(結城市立結城南中学校２年　中沢由美，矢中恵美子)　▷佳作「受験のためだけ？家庭学習」(岩井市立岩井中学校３年　後藤和代，中山純子)，「明日への炎太陽エネルギー」(結城市立結城中学校３年　稲葉由美子，杉山由巳江，中沢厚子)

第５部　▷１席「他人事でない勤労者の老後」(友部町　青木勇一)　▷６席「反核の原点ヒロシマ・ナガサキ」(友部町　稲野辺敏明)

(統計課・統計指導グループ)

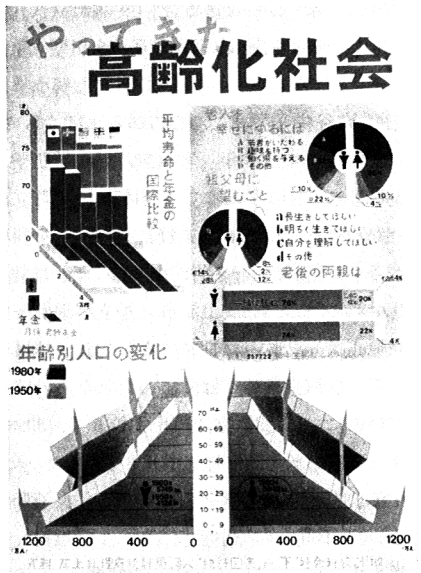
知事賞受賞作品

《第１部》

下妻市立大宝小学校３年

中　山　佳　子

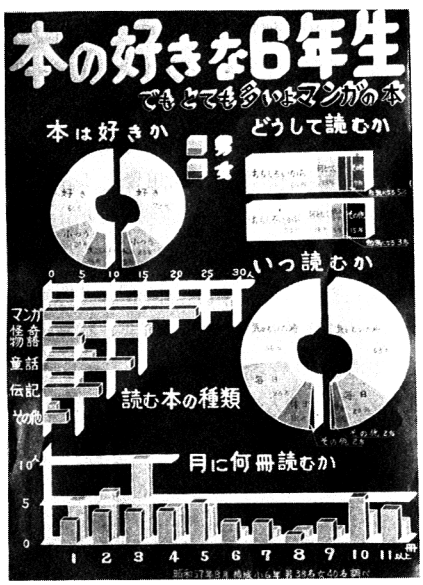
《第３部》



結城市立結城中学校３年

稲葉　稔　　宮田　豊
中原健彦

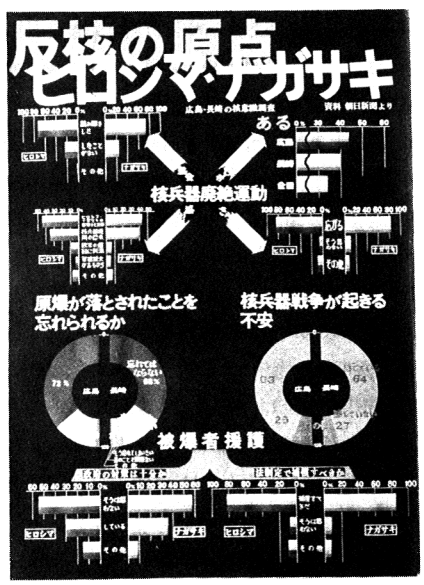
《第２部》



結城市立結城小学校６年

穐　本　玲　子

《第５部》



西茨城郡友部町

稲野辺　敏　明

茨城県統計大会を終わって

10月18日，第24回茨城県統計大会が大洗文化センターで開催され，成功裡に終わりました。

これまでは，少くとも一昨年までは，県の統計大会は水戸市の県民文化センターで開催する，ということが通例化しておりました。

ところが，昨年，県民文化センターを離れて谷田部町で開催されたことは，これまでの慣例を破る新しい試みとして，また，地域を知るという観点からも，統計関係者として歓迎するところのものでした。

御存知のように，茨城県には，現在ビッグプロジェクトとして，国際科学技術博覧会の開催や水戸射爆場跡地の開発，常磐自動車道の建設等があり，それと並んで，当町と北海道をカーフェリーによって結ぶための大洗港の整備がスピードを上げて進められ，昭和59年度にはその実現を図ろうとしております。

このため，当町では港を中心に海岸環境整備事業による海浜レクリエーションのための新浜づくりや庁舎周辺の環境整備を進め，この6月には，その一環として大洗文化センターが完成いたしました。そんな折，第24回茨城県統計大会を大洗で……という話に接しました。

統計大会が開催されれば，当町の“まちづくり„を県内の多数の統計関係の方々に知っていただくことにもなり，町としても大いに歓迎した次第です。しかし，一抹の不安もないわけではありませんでした。

一つには駐車場。まだ，“まちづくり„の途上にあるため，スペースの確保のみで未整備の状態にあり，果たして200台からの車を収容できるかどうか，気になるところでした。

大会の準備風景

アトラクション・地元出身の浜久美子さん方による本場“磯節„

何とか，当日には駐車できるようにしたのですが，何分仮設であったため，皆様にはたいへん御迷惑をおかけしてしまったのではないかと思っております。

そして，アトラクション。当町は，磯節発祥の地ということもあって，アトラクションにおいてぜひ磯節を……といった要望がありました。そこで，当町出身の浜久美子さん及び大洗本場磯節保存会の方々にお願いして出演していただきましたが，本場の磯節を堪能していただけましたなら幸いです。

最後に，御列席の皆様の御協力と県統計課各位の種々の御配慮並びにお手伝いをいただいた東茨城郡統計担当者の皆様に心からお礼申し上げるとともに，御不便や御迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

（大洗町企画室長　小谷隆亮）